

2018年12月17日

増加し続けるブラック企業をどう減らすのか

経営学部 経営学科 石塚ゼミ

B5R11082 志田 聖也

今回何故この研究にあたったかと言うと、ブラック企業は取り上げられているのにも関わらずそこまで問題視されていない気がしたからである。大事になってようやく動きが見られることがしばしばある。しかしながら改善されないケースもある。その1つの原因として日頃の習慣というものが身体に染み込んでしまっているためである。そもそも社内管理ができていなければブラック企業になりかねないのではないだろうかと考えた。

社内の環境というものは、働く場所を与えていればそれだけで十分だというものではない。環境づくりで重要な事は人材育成である。しかしながら、教育に時間をかけている暇などないといったことや出来るだけ費用を削減したいといったことにより、多くの企業は教育に手が回ってない状況である。しかし、ワンマン経営をしている場合、企業は衰退していつてしまうだろう。だからこそ個性を活かした経営をしていかなくては企業の存続が難しくなっていくのである。そのため環境づくりは必要と言えるだろう。だけれども企業に頼りすぎてしまうのではなく、自身も身を引き締めていかなくてはならない。私たちは企業のために働いているわけではなく、あくまで自分のために働いているのだから楽しまなくてはいけない。しかしながら、上司のご機嫌取りをしながらどう楽しめというのだろうか。そもそも、他の目線を気にしている時点で自分の役割を理解していないのだ。

AIを導入したからと言って成功につながるわけではない。AIの活用とは過去のデータを用いる場合において使用ができる。新規開発など全く新しいことを始めようとする役には立たないのだ。

今回「社内環境を良くすることはブラック企業になるリスクを減らすことにつながる」と考えた。

ブラック企業を無くそうとすると返って社員が働きにくい環境を作り上げてしまう可能性がある。そのため他社と比較をし、自社がどのような状況下に置かれているのかを理解して適切な対応をしていく必要があるだろう。確実に1つひとつ目の前の事に対して改善していこうとしている気持ちがあるならば、気付いた時にはブラック企業という概念は頭から姿を消しているだろう。